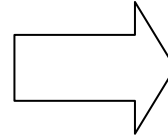


東北公益文科大学（山形県酒田市）

日本遺産を誇る山形県庄内地方を基盤とした地域文化と I T 技術の融合による伝承芸能研究の展開

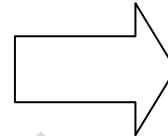
研究ブランディング事業 各チームの取組

A 地域資源の掘り起こしと分析・活用研究 チーム
(チームリーダー：渡辺准教授、小関講師)



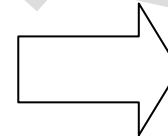
- ・ 庄内地域の歴史的資産の検証
- ・ 庄内の地域資源の再発見と再評価
- ・ 地域資源を活用した商品開発、スモールスタートビジネスの研究
- ・ I T の技術による地域活性化の研究

**B モーションキャプチャ等 I T を活用した
地域の民俗芸能のアーカイブ化 チーム**
(チームリーダー：玉本特別招聘研究員、唐助教)



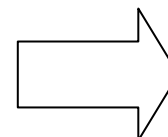
- ・ 庄内地域の歴史文化を踏まえた I T 技術の活用研究
- ・ モーションキャプチャを活用した地域文化のデータ保存・アーカイブ化研究
- ・ 地域民俗芸能の C G アニメーション化
- ・ 地域文化を V R 技術等で発信する手法研究

C 民俗芸能の伝承環境構築とその展開 チーム
(チームリーダー：玉本特別招聘研究員、
三浦特任助教)
(チームメンバー：唐助教)



- ・ 民俗芸能の伝承状況の確認と分析
- ・ I T 技術の活用による民俗芸能の伝承研究
- ・ I T 技術を活用した観光産業のマーケティング
- ・ 庄内の民俗芸能のバーチャル体験企画提案

D 地域資源を活用する人材育成に関する研究 チーム
(チームリーダー：広瀬准教授)



- ・ 高度なメディア情報技術スキルを持つ人材の育成
- ・ 地域資源の再発見による新たな商品開発
(観光・インバウンドなどを含む) と、
その商品が及ぼす経済効果の検証

A

地域資源の掘り起こしと分析・活用研究

実施地域

- ・山形県鶴岡市加茂地区（歴史的湊町モデル）
- ・山形県酒田市日向地区（中山間地モデル）

チームリーダー

- ・渡辺暁雄 准教授
- ・小関久恵 講師

キーワード

- ・「まちの記憶」継承
- ・高齢者福祉
- ・交流人口促進
- ・ドローン、360度カメラでの記録

取組の目的と内容

まちの景観や伝統存廃の危機
地域の歴史的情報消失の危機

- ・デジタルアーカイブ化
- ・聞き書き
- ・デジタル化された「記憶」の有効活用検討



研究手法

- ・昔の景観情報（古い写真）を用いて、地域に長らく住まわれてきたご高齢の皆さんに、その場所の思い出を語ってもらう。
- ・現在の町の景観を360度カメラやドローンを用いて撮影する。

成果・効果

- ・地域資源の掘り起こし研究を行いながら、デジタルデータによる新たな価値付けを行っている。
- ・地域資源のデータについては、観光資源としてだけでなく、高齢者福祉などへの対応を検討中。

進捗状況と今後の予定

【現状】

- ・対象地域（加茂地区、日向地区）の、景観の現状を把握。

（360°カメラなどで撮影）

- ・対象地区の伝統芸能の記録開始。

- ・地域の古い写真を収集

- ・ガリバーマップ上に古い写真を配置し、高齢者に「当時」を想起、語ってもらう作業の試行。

【今後】

- ・対象地区のデジタルマップを作製。

- ・古い写真や高齢者の「語り」データをデジタルマップに移植



取組のポイント

- ① まちの記憶のデジタルアーカイブ化
⇒地域文化継承，福祉的効用
- ② バーチャルマップ作製⇒交流人口促進
- ③ 伝統芸能・行事のデジタルアーカイブ化

B

モーショントップチャ等ITを活用した地域の民俗芸能のアーカイブ化

実施地域

- ・山形県鶴岡市黒川
- ・山形県酒田市

チームリーダー

- ・玉本英夫 特別招聘研究員
- ・唐栄 助教

キーワード

- ・モーショントップチャ
- ・無形文化財
- ・伝承環境構築



取組の目的と内容

- ・自治体や文化財・民俗芸能等の専門家、地域住民の協力を得ながら、踊りや能等、人による伝承を必要とする庄内地域の無形文化財の記録を行う。
- ・バーチャルリアリティ技術（VR）やモーショントップチャ、CGアニメーション等、メディア情報の技術による新しい伝承方法を開発する。



研究手法

- ・モーショントップチャやCGアニメーションを活用して集積したデータについて、さまざまなメディアで発信の可能性を検討し、観光施設でのバーチャル体験等への応用についても研究する。

成果・効果

- ・庄内地域の無形文化財のデジタルデータ化と新たな伝承方法の提言をすることで、地域価値の創造につなげていく。

進捗状況と今後の予定

- ・鶴岡市櫛引地区に伝わる国指定重要無形民俗文化財「黒川能」をモーショントップチャ(MoCap)で収録している。平成29年度からはじめて、現在までに7演目を収録した。
- ・酒田市に伝わる、湊町文化が謡われている「酒田甚句」の踊りをMoCapで収録した。
- ・黒川能、酒田甚句の踊りをCGアニメーションで再現する手法を開発した。
- ・引き続き、黒川能、番楽、盆踊りなど地域に伝わる民俗芸能を収録し、CGアニメーションで再現していく。



取組のポイント

- ① 地域資源のアーカイブ化
- ② 次世代への伝承のための民俗芸能の
デジタルデータ保存
- ③ デジタルデータのCGアニメーション化

C

民俗芸能の伝承環境構築とその展開

実施地域

・山形県庄内地域

チームリーダー

・玉本英夫 特別招聘研究員
・三浦彰人 特任助教

キーワード

・メディア発信
・データ分類
・MAPとコンテンツの
CPタグ付け

取組の目的と内容

- ・多種多様な記録・表現手法を活用し、文化財をはじめとした地域資源の記録・活用が可能となる手法とシステムを開発する。
- ・地域資源の掘り起こしとオープンデータ化、更には活用を推進することを目指す。

研究手法

1. スマホや360度カメラ等で撮影
2. 自動アップロード（スマホ→クラウド）
3. 自動処理（整理・タグ付け、Web記事生成）
4. コンテンツをオープンなライセンスで公開
5. コンテンツの活用につなげる

成果・効果

- ・これまで扱いにくかった3Dデータのデジタルアーカイブの作成・利用に多くの人々が参加できるようになる。
- ・地域資源の掘り起こしと活用が推進される。



進捗状況と今後の予定

- ・現在、データの収集を行っている。また、収集した画像を簡単もしくは自動的にアップロード可能なシステムを開発している。今年度中にデータ投稿基盤を整備していく。
- ・画像が自動的にマップ上に登録され、タグ付けをすることで、撮影時間や撮影場所で検索できるようにしていく。
- ・9月に広島県で開催されるオープンソースカンファレンス2018で、本取組について研究発表を行う。

取組のポイント

- ① デジタルアーカイブ向け3Dデータ
作成の効率化
- ② デジタルアーカイブされた3Dデータの応用
- ③ IT技術を活用した観光産業の
マーケティング

D

地域資源を活用する人材育成に関する研究

実施地域

・山形県酒田市

チームリーダー

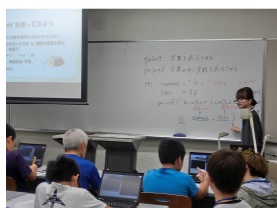
・広瀬雄二 准教授

キーワード

・人材育成
・プログラミング
・Ruby

取組の目的と内容

- ・地域の文化的資源をデジタル化するためのメディア情報技術を持つ人材の育成



研究手法

- ・若年層を対象に、実際に人材育成のためのカリキュラムを作成し、教育講座を実施することを通じて、その効果を検証し継続的な改善を進める。

成果・効果

- ・文化的資産のデジタル化には文化財そのものへの知識とともに、情報処理そのものの理解が必要で、そのためには基礎理論に対する学究姿勢の涵養が不可欠である。
- ・その入口としての入門講座を開き、学びのきっかけを若年層が楽しめる形で提供する。

進捗状況と今後の予定

- ・平成30年度上半期に、酒田市教育委員会の協力のもと市内の小学5、6年生向けにRubyのプログラミング講座を実施した。
- ・1対1体制で臨んだことも効を奏し受講した小学生たちはいずれも自力で作品を作れるまでの力をつけ、情報処理の入口を「楽しい」ものとして経験できたことを確認できた。



取組のポイント

- ① 幅広い年齢層向けのメディア情報技術研修による地域資源活用人材の育成
- ② 多様な年代に対応したIT教育
- ③ 1対1対応等目の行き届く実施体制

社会科学的手法 × メディア情報 技術 = 社会展開
(地域社会へ研究成果を還元)

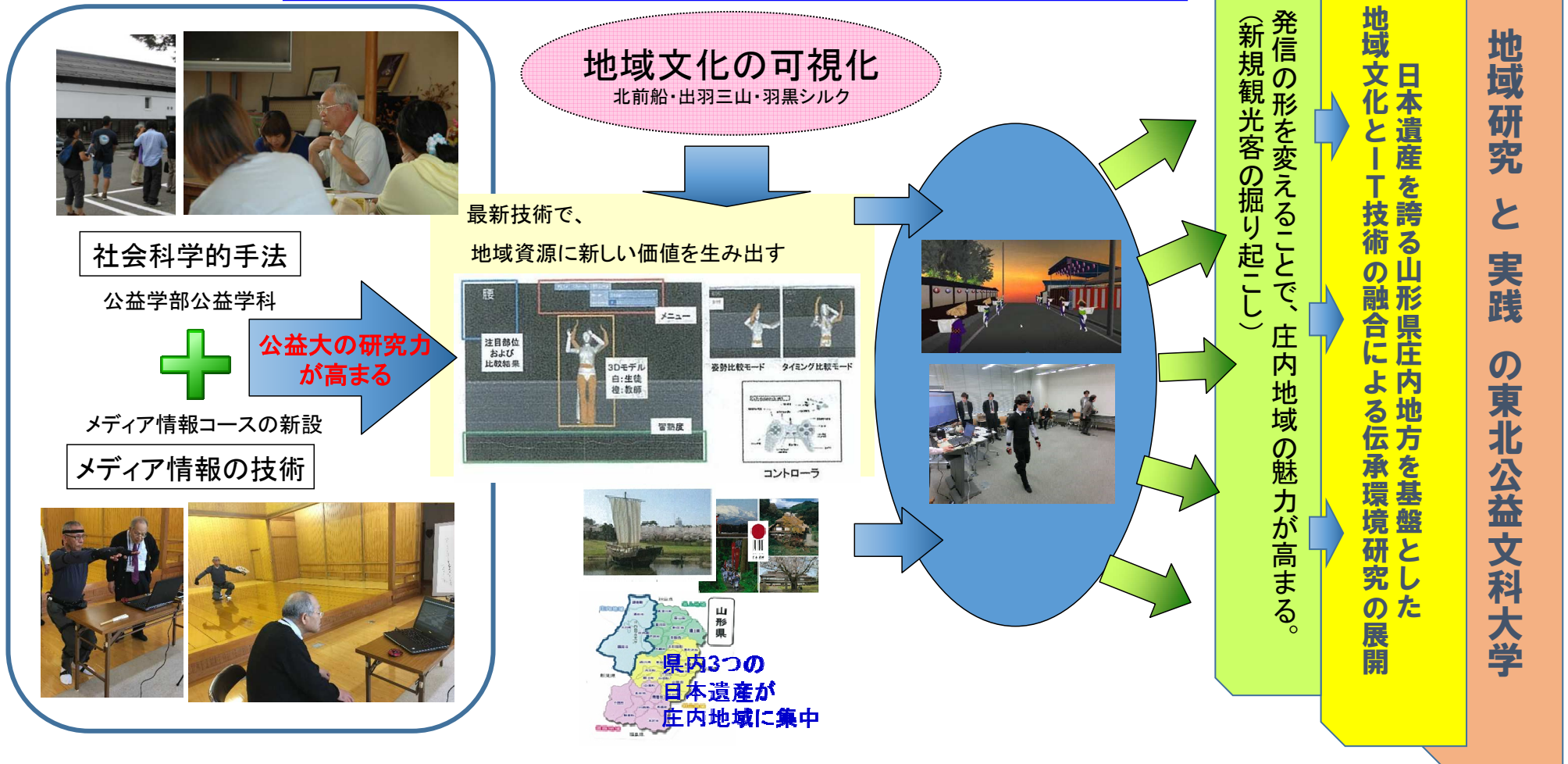


図1 地域文化と地域研究の可視化とその波及効果イメージ図